飯舘村を形づくる個性豊かな20行政区を連載で紹介します

いいたて20行政区 vol.7
7区 大倉行政区

いにしえの万葉の歌に「真野の川」（真野川）が詠まれているように、大倉地区は、古くから人が暮らしていた歴史の深い地域です。松ヶ平地区では、後期旧石器時代、縄文時代、平安時代の遺跡が発掘されています。また、「お浜くだり」「葉山ごもり」など古くから伝わる行事を、震災で中断するまで継承してきた地域でもあります。

大倉地区は、真野川流域の谷あいにあります。ダム建設の適地であるとして、ダム計画が浮上する度、故郷が湖底に沈む計画に対して住民は強く反対しました。昭和45年の3度目の計画にも激しい反対運動が起こりましたが、その後「真野ダム対策同盟会」を組織して県と交渉を進めることとなり、昭和52年に協定書、55年に補償協定書に調印しました。昭和56年には水没移転者の離村式が行われ、人々は子ども達の歌「ダムに沈む大倉の里によせて」に涙し、別れを惜しんだと言います。

多目的ダム「真野ダム」は、平成3年に完成。周辺に体育館や橋が整備され、ダム湖は「はやま湖」と命名されました。湖畔には桜が植えられ、さまざまなイベントに活用されるようになり、「はやま湖」は、地域に愛される名所となっていきました。


はやま湖を活用したイベントの一つ、「森と湖まつり」。恒例のモーターボート湖上遊覧。（平成11年）


避難指示解除の年の夏には「はやま湖花火大会」を復活開催。多くの人に元気を与えました。（平成29年）


震災後初の「はやま湖まつり」。写真は「大倉の神楽」。（令和5年）


釣り人に人気のはやま湖。春には桜並木が縁取ります。（令和7年）

大倉行政区（7区）

区民数７９人（令和８年10月１日現在／住基人口）

ダムに水没した場所は、川の両岸に田畑があり、未舗装の細い道をバスが通っていました。ダムの建設に伴い道路はよくなりましたが、地区外に移転する人も多く、戸数はぐっと減りました。しかし震災を経た現在も、地区の女性達による「こぶし会」などが一生懸命に活動していて、春のグラウンドゴルフ大会、夏の「はやま湖まつり」、行政区の秋まつりなどには、避難先に住む人も集まります。また、日頃から、グラウンドゴルフやバドミントンなどの活動も盛んで、農地保全の活動には地区の人が協力しています。一人ひとりが日々を楽しむことが大切だと思っています。この秋は研修旅行で宮城県を訪れ、震災からの復興の様子を皆で視察してきます。


佐藤一郎区長



スポーツ公園の今と昔

いいたて今昔物語

村制施行70周年

さまざまな場所や暮らしの変化を見てみよう。

昭和


飯樋町にあり広く親しまれていた村民グラウンド。写真は「飯舘村小学生スポーツ交歓会」のひとコマ。（昭和55年）

平成


センター地区に整備された村民グラウンドで。「第44回村民体育大会」。（平成19年）


「いいたてスポーツ公園」のグランドオープン。女子マラソン元日本代表の増田明美さんと子ども達によるセレモニーの様子。（平成30年）

令和


「いいたてスポーツ公園」の夏の風物詩、「いいたてナイター駅伝」。レース前の夕暮れ。（令和８年）

行政区対抗で多彩な競技を楽しむ「村民体育大会」は、昭和38年に第１回大会が開催され（初回は２方部に分かれての開催）、以降東日本大震災発災の前年、平成22年の第47回大会まで、毎年開催されていました。昭和43年10月5日発行の「広報いいたて」には、その第６回大会がリニューアルした「村民グラウンド」で開催されたと書かれています。この昭和40年代には、さまざまなスポーツ連盟や体育協会が設立され、飯舘村はスポーツが盛んな村になっていました。その後、昭和末期にスタートしたセンター地区の開発で、「村民グラウンド」や「いいたて球場」が、現在の「いいたてスポーツ公園」の場所に新設されました。そして、震災による全村避難を経て、傷んだ施設を改修。避難指示解除の翌年、平成30年に、「いいたてスポーツ公園」がオープンしました。現在では村民の利用はもとより、広域から利用者が訪れ、各種スポーツの練習や試合、大会にも活用されています。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

多目的集会所を改修し活用を再開



交流センター「ふれ愛館」の東側に建つ「多目的集会所」。震災後は、被災地を支援するため全国から出向してきた「ウルトラ警察隊」の活動拠点として活用されました。その後改めて利用目的が検討されてきましたが、この程改修が完了し活用を再開しました。





「いいたて村文化祭」では民具の特別展示の会場になりました。今後は村の資料や図書、土器などの出土品、民具などを整理・収蔵する場所として活用していく計画です。

施設を見学をされたい方は、交流センターの職員にお申し出ください。

図書の貸し出しもご利用ください

問 交流センター「ふれ愛館」☎0244-42-0072